

会 議 録

1 会議名

平成29年度第2回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 平成29年度地域活動支援事業の採択結果について（公開）

(2) 自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」（公開）

3 開催日時

平成29年6月27日（火）午後6時33分から午後7時28分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、池内幸雄、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、二野 浩、保坂真由美、山田宏文、横尾彰平

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

- ・佐藤委員を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：池内委員、伊藤委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成29年度地域活動支援事業の採択結果について—

【山口会長】

次第3報告（1）「平成29年度地域活動支援事業の採択結果について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【山口会長】

説明について質疑を求めるがなし。

—次第4議題（1）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」—

【山口会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項『三郷区における高齢者支援の取組について』」に入る。

まず4月25日に実施したすこやかサロン三郷の視察研修のふりかえりを行う。

事務局に説明を求める。

【小林主事】

資料No.2により説明。

【山口会長】

意見交換を行う。

【尾崎委員】

私が一番痛感したのは会場の問題。会場は2階であり、トイレの問題等もある。PRして人を集めるには、場所の有効性というか、それらしい場所が必要ではないかと思った。

【池内委員】

「2. すこやかサロンの課題」の（3）⑥は私が書いた。三郷地区で65歳以上の人

は400人いる。8割程度が自由に歩けるとすると、15名の出席者ではとても少ない。

(1) ①も私が書いた。15名の出席では、相当程度の人がこの事業の意義を認めていないのではないか。

【加藤委員】

どう進めたらいいのか見えてこない。問題はいろいろあり、議論ではいろいろな意見が出てくるが、それをどうクリアしていくのか。

【伊藤委員】

参加人数や場所の安全性のこともあるが、皆さんに来てもらえるように、いかにPRするかが問題。それがうまくいけば、遠い方でも来てもらえるのではないか。来たら楽しいと知ってもらうためにどうすればいいかが一番の課題。

【二野委員】

私たちが一緒に30分ほどの体操をさせてもらい、非常に良いことだと思っているが、皆さんにどう周知して来ていただくか。それと場所の問題。例えば30～40人集まった場合に、本当にここでできるのか。地域全体を見ても、60代～70代前半の方々は家でじっとしていないため、なかなか集まりにくいのではないか。会場に来ることができる年代の方が三郷地区全体で実際に何名いるか、調べた方がよい。

【保坂真由美委員】

三郷地区はほとんど農家である。農家の方たちは、70～80歳くらいまでは体が動き、ほとんど毎日仕事をしている。それが終わると、孫の世話もあるし、親の介護の問題も出てくる。孫や親を預けてまで参加することはできないと思う。

現状が全く分からない。個人情報であり出せないという方もいるとは思いますが、ある程度把握した中で、どこまでのものを相手に投げかけて、参加してもらえるか。今は駄目でも冬場は来ることができるなど、いろいろな場合がある。それがはっきりした段階で順々にしていくのも、ひとつの手。

【山田委員】

都合が悪く出席できなかったが、皆さんの意見を見ると、特に交通手段。送迎となると大変な問題になるが、出席率が上がらない。公民館の近所の方は簡単に来ることができるが、遠くの方だと。天気がよければ元気な人は自転車に乗って来ることができるが、やはり交通手段が一番の問題ではないかと思う。

【横尾委員】

認知度の問題が一番大きい。万難を排してサロンへ来る人は少ない。最初に来た人で

固定化しており、新しい人が途中から入りにくい雰囲気がある。始めるときにもう少しPRの仕方を考えるべきだったのではないかと思う。

私も2、3人に聞いてみたが、やはり田舎に育っていると、途中から入りにくいという意識を持っている人が非常に多い。スタートするときにはただチラシを配るのではなく、もう少しやり方があったのではないか。

【保坂副会長】

毎週火曜日に行われているが、火曜日は都合が悪い人は参加しにくい。

昨年、出前講座を実施するので町内で相談してほしいという話があり、町内で相談したこともある。JAの方たちもいろいろ工夫しているが、参加していない人に参加してもらうにはハードルが高すぎると感じる。参加している人たちは楽しんでいるので、そのギャップをいかに工夫して縮めていくか。現状がこうだから駄目というのではなく、保坂真由美委員のとおり、実情をもう一回確認したらよい。もっと知恵を絞り合えば、何か方法が出てくるのではないか。

【竹内副会長】

少人数だったが、充実した体操だったり、お茶を飲んだり、内容はとてもよい。ただ参加人数が少ないため、どうPRするかが問題。

辰尾新田町内からも2名ほど参加されていた。辰尾新田町内では、同じような年代の方を集めた小さいサロンを、昨年12月頃から始めている。出前サロンもしようかと話が出たらしいが、そこまでは発展していない。他の町内の動きは分からない。

要介護度が高い人は、デイサービスやショートステイへ行っている方が多い。8割ほどが健常者だが集まる人は限られている、というのは分からなくもない。場所やここに集まる意義、PRなどをもう少し充実していかなければいけない。そういったものが課題。

また、新しい高齢者支援の方法について、もう少し練っていないといけない。

【山口会長】

皆さんからひと通りお聞きした。ひとつひとつ、ごもつともだと思う。

池内委員が言われた課題について、400人のうち8割ほどがここへ来た場合、会場の問題もある。後で話をするが、高齢者支援の課題のひとつにもなる。

サロンの視察に関する感想は、「内容は良い」というのが総体的な意見。今後進めていくには、話が出たような問題点や課題があると思うが、機会をとらえて話し合い、意見をまとめたい。

公民館の改修については、議会でもテーマとして挙げられているため、推移を見守っていききたい。

続いて、高齢者支援の取組について意見交換を行う。

事務局に説明を求める。

【小林主事】

資料No.3により説明。

【山口会長】

資料に挙げられた課題に対する解決方法や、新たに思いついたことなど、意見を。

まず、「1. イベントを実施する」について、出された意見にはユニークなものもある。解決方法は、「カラオケの機材をレンタルする。」「町内の集会所で開催するなど、参加しやすい環境を整備する。」と、公民館だけではなく各町内会館や集会場等で行うのもひとつの手。出前サロンや出前教室を行えば、ある程度の方に出ていただける。事務局は大変だろうが、それも必要。他に新しい意見あれば、述べてほしい。

「カラオケの機材をレンタルする」という意見は、二野委員だったか。

【二野委員】

そのとおり。

【山口会長】

それができるのか。お金がかかる。

【二野委員】

お金は当然かかる。その財源をどうするか。

【山口会長】

三郷小学校で9月にミュージックかオペラをするようである。そのような機会があれば、参加してもよい。

カラオケで「ふるさと」でもいいし、歌手の歌を歌ってもいい。以前勤めていたデイサービスでは、ボランティアが来て歌を歌ったりした。サロンの運営について協議するときに、また出てくるだろう。

【保坂副会長】

他区の地域活動支援事業では、高齢者支援の活動を請け負っている団体が、10～20万円、地域によっては30万円の補助を採択され、事業を行っているところもある。地域活動支援事業がどれくらい続くか分からないが、資金が不足する場合は利用できる。

【池内委員】

イベントの実施は、町内の集会所で開催するのは非常に良いことだが、メインとなる公民館は絶対に改修しないと駄目。これだけの人がいると数字を出して、今の会場ではできないため直してほしいと言うのが先。

【山口会長】

それはイベントではなく全体のことか。

【池内委員】

そのとおり。

【山口会長】

全体のことも必要だが、ひとつずつテーマに沿って。

【池内委員】

イベントを実施するとしても、町内を回るだけでなく、メインのイベントが必要である。今はそれが何もない。きちんと集まった場合どれくらいの人数が集まるのか、調査が必要。

【山口会長】

分かった。それもひとつの課題として考える。

【池内委員】

各町内から代表で出ている。集落ごとに足せばいい。

【山口会長】

65歳以上の方が何人いるかということか。

【池内委員】

そのとおり。きちんと歩ける人が何人いるか、助けが必要な人が何人いるか、きちんと数字で出すべき。

【山口会長】

横尾委員は民生委員をされているが、そういうことは把握しているか。

【横尾委員】

民生委員がどこまで出してよいか疑問。ある程度の資料なら市の福祉課に聞けば教えてくれる。その方がよい。

【山口会長】

行政とも相談しながら、資料があれば示したい。

センター長、それは可能か。

【佐藤センター長】

市がどの程度情報を持っているかによる。

【山口会長】

後で相談する。

【二野委員】

各町内で、災害時の避難名簿等を作っているのではないか。その中で、65歳以上が何名、75歳以上の後期高齢者が何名と。市で分からないことはないが、動けない方などは市へ聞いても分かりにくい。町内会長が把握されている人数を出した方がよい。

【山口会長】

是非相談したい。

分かる範囲内で調べてみたい。駄目なら、皆さんにもご足労をかけるかもしれない。

「1. イベントを実施するについて」は以上とするが、また考えておいてほしい。

次に「2. 畑や料理などを楽しむ」の解決方法について、意見を求める。

【竹内副会長】

皆さん自分の畑が1番だと思っている。三郷の人たちはそういう人ばかりだと思う。たくさん採れば近所やいろいろな人へ配ったりする。土地を借りるのではなく、自分たちの畑で本格的な野菜づくりをしているため、それを品評会のように持ち寄り、料理すればよい。

会場をどこにするかという課題が出てくるが、野菜の品評をすれば、イベントも絡められる。

【尾崎委員】

場所は別として、余った野菜をどこかで売れば。手間をかけずに、規格を統一しなくても売れる場所があれば、自ずと参加してくる。うちの父親も畑をされていて、余った野菜が毎日出てくる。もったいないということもあるため、そういう場所を設ければ生きがいにもなるし、皆さんとの意見交換の場にもなる。それも高齢者支援のひとつ。

【山口会長】

地域活動支援事業で、お茶のみサロンの会場を改築し、野菜などを売ったりしているケースがあったため、可能だと思う。

【竹内副会長】

安塚区では、朝採り野菜を担当者がその家の玄関先まで集荷に行き、ゆきだるま物産館で売っている。本人は行かず、担当者が集荷して値段を付けて売る方式である。生産者の名前も出る。三郷の夏祭りなどのイベントで、そういうコーナーを設けてもらえば。

【山口会長】

「子どもたちとの交流」という意見が出されている。これも今後のテーマのひとつだろう。長年培ったノウハウをいかし、例えば枝豆の種をまいて収穫し、三郷の夏祭りで子どもたちが販売する。三郷小学校の4年生は、授業の一環で稲作をして売っている。農村地区なので、こういった子どもたちとの交流を今後のテーマのひとつとして取り組んでもよい。課題はあるが、面白い試みかと思う。

尾崎委員のとおり、販売するのも方法のひとつ。

【保坂副会長】

5年生の野菜作りにおじいちゃんおばあちゃんたちから指導していただくことが代々続いている。2年生の野菜作りでは、児童の祖父母たちが野菜の先生になり、自分の好きな苗を植えて、途中の面倒は近所のおじいちゃんおばあちゃんたちが見てくれるというのを、数年来行っている。学校として祖父母との交流を行っている。

【山口会長】

手を差し伸べて、至れり尽くせりするのもよいが、動ける方へのサポート、あるいは一緒に何かするのも、ひとつの高齢者支援になる。

【池内委員】

そのとおり。何かしないと。

保坂副会長の話だが、その学年の児童の祖父母がしているのか。

【伊藤委員】

2年生の祖父母は植えるときなどに来るが、あとの面倒を見してくれるのは近所の方。孫がない方もして下さる。稲作も、ほとんど毎年決まった方が管理をしてくれて、稲刈りも教えてくれる。児童の祖父母ではない。

【池内委員】

全くボランティアのような方がおられる。

【伊藤委員】

そのとおり。毎年お願いして田んぼを借り、学ばせていただいている。

【山口会長】

高齢者支援ではなく、高齢者による取組を行っているということ。

窓口は学校か。

【伊藤委員】

そのとおり。

【山口会長】

今後、地域支え合い事業を受託した場合、それもひとつのテーマになる。介護やサロンなどの年間行事の中に、そういうものを取り入れてもよい。

【伊藤委員】

野菜の話もそうだが、三郷地区の歴史・史跡を研究する会からも、学校で教えてもらっている。三郷にいた人は、誰でも昔のことを子どもに伝えることができる。

【山口会長】

引き出しを温めて、次にまた出して欲しい。

テーマは他に3、4、5とあるが、「4. 農家の高齢化について」は、大規模化、法人化、公社化という解決方法がある。尾崎委員はご存じだと思うが、三郷全体の農地集約について何かあるか。

【尾崎委員】

農協は全く絡んでいない。関川水系土地改良区で、三郷区の9町内で200ヘクタールの大規模ほ場整備をしたいという話が出てきている。ただ、まともにもいっても10年。加速する場合もあるが、それくらいスパンの長い話になる。

ある町内では、法人化の話が出始めていると聞いた。どんどん小規模農家が集約されて大規模になっていくと思うが、高齢化に伴い、難しいところがある。自分で動けるうちはやりたいという方がたくさんいる。

【山口会長】

二野委員、農家の高齢化について、町内ではどのような感じか。

【二野委員】

西松野木の66町歩のうち、40町歩ほどが法人化した。今後さらに増え、将来的に西松野木では個人でされる方がほとんどいなくなるのではないか。

【山口会長】

農家の高齢化については、両委員のお話しのことが区全体で動いている。法人化、公社化については、今後法人の受け手が高齢化したときにどうするかが大きなテーマになる。

「3. サービスを提供する」は、買い物支援や運転代行など、「5. その他」とリンクするので、次回以降話を進めていきたいので、良い案を考えておいてほしい。

最後に、自主的審議事項の今後の進め方について確認したい。

これまで三郷区の高齢者支援の取組を審議し、すこやかサロンの視察研修により現状

を確認してきた。そして、本日までにある程度成果がまとまったと考える。

この結果は、まず三郷区の地域の中で解決すべき課題として、委員で共有していきたい。そして、地域で新しい動きが出てきた際に、改めてこの自主的審議の結果をすこやかサロンの活動等に反映させるなどしていきたい。

皆さんから意見があればその都度審議するが、一旦ここで審議をまとめたいと考えるがいかがか。

このことについて、質疑を求める。

【尾崎委員】

確認する、高齢者支援の取組はいったんここでまとめておくということによいか。

【山口会長】

そのとおり。皆さんから出た意見を引き出しの中に入れて、新たな動きが出たら反映させるということである。ただ、協議会の中で何かあれば、皆さんと協議したい。

自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」は、地域で新しい動きが出てきた際に改めて審議することを諮り、委員全員の了承を得る。

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回協議会 7月19日（水） 午後6時30分～ 三郷地区公民館 集会室
- ・ 地域活動支援事業の追加募集開始（募集期間6月26日～7月7日）
- ・ 三郷区地域協議会だより第29号を6月15日に発行
- ・ ウィズじょうえつからのおたより配布

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

【佐藤センター長】

追加する。

- ・ 南部まちづくりセンターは7月31日に福祉交流プラザへ移転

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。